



舞台は障害当事者が運営する自立支援センター。そこは“生きづらさ”を抱えた人が“自分らしさ”を取り戻す場所。

INDEPENDENT LIVING

インディペンデント
リビング



田中悠輝 監督

監督:田中悠輝 プロデューサー:鎌仲ひとみ

撮影:辻井潔/田中悠輝/岩田まき子/小角元哉

編集・構成:辻井潔 製作:ぶんぶんフィルムズ

製作協力:全国自立生活センター協議会/自立生活宇宙センター

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

キリン福祉財団 公益財団法人 キリン福祉財団/全国自立生活センター協議会

2018|日本|88分|DCP|ドキュメンタリー ©ぶんぶんフィルムズ

bunbunfilms.com/filmil

障害者が“自立生活”を選ぶ。



インディペンデント
リビング

無料上映 & トーク

0の詳細はこちら



開催日時

2024年 9月8日

日曜日

TIME. 14:00-17:30

開催会場

公益社団法人 青年海外協力協会 **JOCA 東北**

※詳しいアクセス情報については裏面をご覧ください。

イベント内容

- ① 映画上映 「インディペンデントリビング」
- ② パネルトーク：田中悠輝監督 × JOCA 東北
- ③ 青年海外協力隊セミナー & 相談会

【主催】 JOCA 東北 【共催】 宮城県理学療法士会/宮城青年海外協力協会



**リスクを負ってでも手にしたい“自由”がある。
自由を手にするだけでしか、みつからない“自分”がいる。**

物語の舞台は大阪にある自立生活センター。ここは障害当事者が運営をし、日常的に手助けを必要とする人が、一人で暮らせるよう支援をしている。先天的なものだけでなく、病気や事故などにより様々な障害を抱えながら、家族の元や施設ではなく、自立生活を希望する人たち。自由と引き換えに、リスクや責任を負うことになる自立生活は、彼らにとってまさに“命がけ”のチャレンジだ。家族との衝突、介助者とのコミュニケーションなど課題も多く、時に失敗することもある。しかし、自ら決断し、行動することで彼らはささやかに、確実に変化をしていく――。



**体が動かなくても、想いが伝えられなくても、
どこまでも“自分らしく”ありたい。**

監督は自らも介助者として働く田中悠輝。障害当事者からの「自分たちの姿を撮って欲しい」という声を受け、自立支援の現場で3年にわたり撮影を続けた。彼らとの関わりを通して、自分自身の内に「障害者」という勝手な枠組があると気づいた監督が、その枠組を壊し、自分を、社会を、変えていこうと奮闘する人々を見つめ、“生きづらさ”を抱えた人たちが、“自分らしさ”を取り戻す瞬間とその輝きを映し出す。

主な登場人物



フチケン

事故で頭髄を損傷、首から下に麻痺がある。20年近く介護を担っていた母親の死を機に、自立生活を始める。



たいき

脳性麻痺と知的の障害当事者。18歳まで入所していた施設を出て、自立生活を始める。



あっすー

知的と精神の障害当事者。てんかんのような発作に悩まされながら、自立生活をを目指す。母親と、時に衝突が起きる。



トリス

くも膜下出血により高次脳機能障害となり、右半身の麻痺と失語症がある。自立生活を目標としてセンターを訪ねる。

自立生活センターとは？

重度の障害があっても地域で自立して生活ができるように、必要なサービスを提供する事業体であり、同時に障害者の権利の獲得を求める運動体である。センターは障害当事者により運営され、身体障害に限らず、知的、精神の障害者のサポートもしている。1972年、アメリカ・カリフォルニア州に世界初の自立生活センターが誕生。1986年に日本でも初めての自立生活センターが生まれた。2019年現在、全国に121の自立生活センターがある。



公益社団法人 青年海外協力協会【JOCA 東北】

宮城県岩沼市中央4丁目3-1 TEL.0223-36-9851

【電車をご利用の場合】JR 東北本線 / 岩沼駅より徒歩5分

開催会場に関する詳細な情報はコチラ →

開催会場
アクセス情報

